

宮城県林業普及活動情報

2026. 6 月号 No. 217

もくじ

各地の林業普及活動情報

P3~10

- 「白石三白のクズ粉」復活に向けた取組
(大河原地方振興事務所)
- 森林経営管理制度の取組推進に向けた市町への支援
(大河原地方振興事務所)
- 山林種苗生産者との情報交換
(大河原地方振興事務所)
- 地域住民からの森林病虫害に関する相談対応
(大河原地方振興事務所)
- 菌床しいたけパッキング機械導入支援
(仙台地方振興事務所)
- 松くい虫被害拡大防止のための薬剤散布
(仙台地方振興事務所)
- ミズキの生育状況調査を実施
(北部地方振興事務所)
- 栗原マルシェ in 県庁
(北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 苔ツーリズムの現地調査
(北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 苗木生産施設整備に係る支援
(北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 竹林整備に関する取組支援
(東部地方振興事務所)
- 木工教室における木育支援
(東部地方振興事務所)
- 間伐予定地における既設路網の現地確認支援
(東部地方振興事務所)
- 森林経営管理制度における境界確認支援
(東部地方振興事務所)
- 「登米市森林管理協議会の先進地視察」に関する支援
(東部地方振興事務所登米地域事務所)

○自伐事業体の労働安全向上のための支援

(気仙沼地方振興事務所)

○みやぎ森林・林業未来創造カレッジ 林業教室 選択講座Ⅰ(特用林産)
(林業技術総合センター)

「白石三白のクズ粉」復活に向けた取組

大河原地方振興事務所

【8日(月)】

地元のきくらげ栽培者が、白石市の伝統食材である白石三白の一つ「クズ粉」の復活を目指し、クズの試験栽培を通じた効率的なクズ粉生産を目指しています。

現在、これまで収集した先進地の情報を踏まえ、まだ少量ですが自然のクズ根からクズ粉の精製を行うほか、商品化にも取り組んでいます。

今後、効率的にクズ粉を確保するためには、クズ根を容易に入手する必要があることなどから、周辺環境に配慮しながら休耕畑を活用したクズ栽培について支援を継続していきます。



【クズの試験栽培の状況】

森林経営管理制度の取組推進に向けた市町への支援

大河原地方振興事務所

【9日(火)・16日(火)】

森林経営管理制度を着実に進めるため、管内の3町(大河原町、蔵王町、七ヶ宿町)を訪問し、これまでの取組と、現状及び課題について聞き取りを行いました。

町ごとに置かれている状況や進捗は異なるものの、いずれの町でもマンパワー不足という共通の課題があります。

当事務所では、関係機関と協力し、必要な助言や支援を行いながら、森林経営管理制度の推進に向けて、引き続き、取り組んでいきます。



【打ち合わせの様子】

山林種苗生産者との情報交換

大河原地方振興事務所

【16日(火)】

管内の山林種苗生産者を訪問し、現在の生産状況や課題等についてお話を伺いました。

ご本人だけでなく、県内の種苗生産体制や今後の見通し等についてもお聞きすることができ、現状を把握することができました。

今後も、補助事業等をはじめ、必要な支援を継続して行い、安定的な種苗生産体制の確保に向けた活動をしていきます。



【生産状況を確認する様子】

地域住民からの森林病虫害に関する相談対応

大河原地方振興事務所

【19日（金）】

蔵王町内の住民から別荘地内の森林のコナラが枯損し倒木する被害があり、ナラ枯れによるものと考えられたため、被害状況の確認をして欲しいとの依頼があったことから、別荘地の森林を管理する管理組合職員と蔵王町の担当職員との合同で現地確認を行いました。

現地では枯損木やカシノナガキクイムシの穿入痕等を確認しました。枯損木と穿入痕が両方とも複数のコナラで確認されたことから、被害が広がっていると考えられました。このことから、住民と管理組合職員に対しては被害の発生状況を観察するように指導するとともに、被害拡大防止や被害木の除去の方法について助言しました。また、防除事業については町の担当職員に相談するように助言しました。

今後も、管内での森林病虫害の被害拡大防止のため、被害対策等に関する助言・指導を実施していきます。



【現地確認の様子】

菌床しいたけパッキング機械導入支援

仙台地方振興事務所

【8日（月）】

菌床しいたけ生産者から、パッキング機械が故障したので補助事業を活用して新規に機械を導入したいとの相談を受け、生産現場に伺いました。

長年使用した機械は交換部品が既に生産廃止されており、修繕は困難でした。市町村振興総合補助金を活用し新規購入することで生産性向上を図ることとし、補助事業における機械導入条件と事業計画書の作成を助言しました。



【現地状況確認】

松くい虫被害拡大防止のための薬剤散布

仙台地方振興事務所

【有人ヘリ 12日（金）】

【無人ヘリ 16日（火）～18日（木）】

【地上散布 23日（火）～25日（木）】

松くい虫被害の拡大を防止するため特別名勝松島地域や県が所有する重要な松林において、有人ヘリ散布及び地上散布を、亘理町と岩沼市の海岸防災林において無人ヘリ散布を実施しました。

有人ヘリ散布・地上散布に当たっては事前に松島町の広報誌により住民へ周知を行うとともに、散布前日も町の広報車で散布の呼び



【有人ヘリコプターによる空中散布】

かけを行いました。また散布時における送電線との接触事故防止のため、事前に電力関係会社とヘリコプターパイロットが安全チェックを行い飛行安全の確保に努め、当日の薬剤散布を実施しました。

無人ヘリ散布についても散布区域に隣接している施設等には散布前に周知を徹底し、安全かつ効果的な散布を実施しました。

仙台管内では空中散布、地上散布及び無人ヘリ散布を合わせて約270haの松林で薬剤散布を実施しており、今後も特別名勝松島をはじめ重要な松林の保全に努めていきます。



【無人ヘリ散布状況】



【動力噴霧機による地上散布】

ミズキの生育状況調査を実施

北部地方振興事務所

【4日（木）】

鳴子の伝統的工芸品であるこけしの材料となるミズキの安定供給を図るため、大崎市が令和7年度に市有林に植栽したミズキについて、大崎市職員と生育状況調査を実施しました。

ミズキは日当たりの良い林道沿いの草地に単木的に植栽されており、一部が雑草木の繁茂により枯損していました。市職員にはミズキの陽樹としての成長特性について説明し、光環境を改善するため、雑草木の刈り払いを行うよう指導しました。



【植栽されたミズキ】

栗原マルシェ in 県庁

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【5日（金）】

「栗原マルシェ in 県庁」において、栗原産苔のテラリウムの販売支援と「栗原苔フェスティバル2026」のPR活動を行いました。

栗原市産の食材等の販売のなか、「栗原苔アンバサダー」が作成した特製テラリウムは、1人で複数個購入した人もいたほか、合計でも約20個売れるなど、オフィス・アイテムなどとしても人気の高まりも伺え、苔の認知度向上にもつながりました。



【販売会の様子】

苔ツーリズムの現地調査

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【23日（火）】

栗原の苔のより一層の認知度向上を図る「苔ツーリズム」の企画を検討し、苔アンバサダー等とともに、市内各所の苔自生地の現地状況を調査しました。

自生地を巡る行程では、多くの苔がみられる山間部の滝周辺が、観察や写真撮影のポイントとしても優れていることを確認しました。

以上から、今後は、これらの候補地を中心に具体的な商品化を行い、栗原市内の他の旅行商品とともに、実際の誘客を試みる予定です。



【現地調査の様子】

苗木生産施設整備に係る支援

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【30日（火）】

苗木生産施設の補助事業の上で、必要な計画作成や実施スケジュールについて、事業実施者への詳細を聞き取るなどの支援・指導を行いました。

また、生産圃場現地も確認し、苗の生産技術は十分な反面、今後、生産規模を拡大する上では、灌水施設の整備が必要であることも確認できたことから、その整備内容についても検討することになりました。



【苗木生産圃場の様子】

竹林整備に関する取組支援

東部地方振興事務所

【23 日（火）】

竹林整備を予定している活動組織と一緒に整備予定地を踏査し、登記所備付地図データや森林計画図データをインポートした GNSS 受信端末を活用しながら現況及び境界の確認を実施しました。境界データ上で位置情報を確認しながら踏査することで、空中写真や等高線だけでは分からない現況を把握し整備の具体的なイメージをすることができました。引き続き支援していきます。



【踏査の様子】

木工教室における木育支援

東部地方振興事務所

【24 日（水）】

森林組合が保育園にて行う木工教室において、「木に関するクイズ」と「木材のヒミツに関する紙芝居」を実施し、木材への理解醸成を図りました。木工品製作に入る前に、木や木材に関するお話をしたことで、園児や保護者、保育者に対して木材への親しみや木の文化への理解をより一層深めることができました。引き続き支援していきます。



【木のクイズの様子】

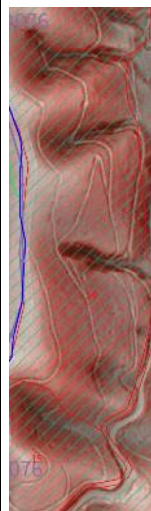
間伐予定地における既設路網の現地確認支援

東部地方振興事務所

【25 日（木）】

事業主体の間伐予定地において、宮城県森林情報提供システムにて公開している微地形表現図で既設路網と思われる箇所を現地確認を実施しました。図上では利用可能な既設路網と思われた道は、実際には 2m 未満の幅員箇所が多く、路上に立木も多くみられ、森林作業道の新設が必要であると判断されました。

空中写真や微地形表現図はあくまで参考資料であることや、現地確認の重要性について事業主体と再認識することができました。引き続き支援していきます。



【微地形表現図と現地の様子】

森林経営管理制度における境界確認支援

東部地方振興事務所

【19日（金）、29日（月）、30日（火）】

昨年度女川町で集積計画を立て、今年間伐を実施する箇所についてGNSSを用いて境界確認の支援を行いました。

3日間で11箇所、約8haの境界を町職員と共に確認することができました。

今後、町ではこの結果を踏まえて、森林整備を推進します。事務所では引き続き支援していきます。



【境界確認の様子】

「登米市森林管理協議会の先進地視察」に関する支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

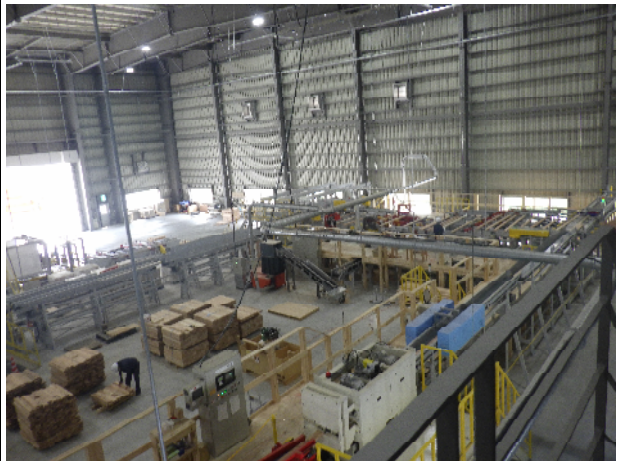
【11日（木）、12日（金）】

登米市森林管理協議会の持続可能な森林経営手法の確立を目指して、自己所有林の拡大、長期的な視点に立った施業内容・植栽樹種等の検討、森林から搬出される資源のトータル活用に取り組む栃木県鹿沼市の栃毛木材工業㈱、ディメンションランバーの生産拠点として福島県いわき市に設立された㈱木環の杜の先進地視察を実施しました。

登米市森林管理協議会の取組課題となっている認証林の拡大や素材生産量の増加について、担当者は搬出される木材の3/4は結果としてチップ材になる実態、丸太販売にはその先の流通まで見据えた手法を検討する必要があることなど、これまでに無い視点を見出すことができました。



【林地残材、製材端材も全てチップ利用】



【㈱木環の杜の製造ライン】

自伐事業体の労働安全向上のための支援

気仙沼地方振興事務所

【5日（金）】

市内の自伐事業体を対象とした作業事故防止の取組として、事業体の打合せの場をお借りし、「山林整備での安全行動」と題した情報提供を行いました。

当日は、実際の事故事例を踏まえた予防法をはじめ、山林火災の防止、事故を起こさないための具体的な取組について説明しました。また、近年課題となっている「クマに遭遇しないための対策」についてもあわせて周知しました。

ご参加いただいた皆様には、安全な作業に対する理解をより一層深めていただく契機となったのではないかと感じています。今後も安全な山林整備に向けて、情報発信を続けていきます。



【講習状況】

みやぎ森林・林業未来創造力レッジ

林業教室 選択講座Ⅰ（特用林産）

林業技術総合センター

【29日（月）】

令和8年6月29日に、林業教室の選択講座Ⅰ（特用林産）を開催しました。

午前は林業技術総合センター職員より、特用林産物の基礎知識、福島第一原発事故後の放射性物質対策の状況、宮城県が開発するハタケシメジの新品種作出の研究状況等について講義を行いました。

午後は県内で精力的に茸生産を行うセツ森菌床椎茸生産組合様及び熊谷農園様の施設見学を行い、菌床栽培・原木栽培の実態について学びました。

培養室に並ぶ菌床や、林内に伏せ込みされた椎茸原木を見た受講生からは「実際に現場を見て、当事者の声を聞くことでより理解を深めることができ良かった」との声をいただきました。



【講義の状況（センター内施設）】



【実習の状況（原木椎茸生産現場）】